

「ワクチンについて正しく知りましょう」

講演③

若い世代に増加する子宮頸がんワクチン接種の現状について

女性78人に1人が毎年発症

予防接種の大切さ理解して

日本では毎年1万人(女性78人に1人)が新たに子宮頸がんを発症し、毎年約3千人(339人に1人)がこのがんを亡くまなっています。発症者は1990年時点で、人口10万人当たり30・8人でしたが、2012年には63・5人と倍増。特に20〜40歳代の増加が著しく、妊娠・出産の多い年代と重なっているのが問題となっています。初

期で発見され命は助かっても、子宮全体を切除してしまつと妊娠・出産できなくなります。子宮頸がんの原因は、イボをつくるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染がほとんどで、性交渉により感染します。性交渉のある女性の50〜80%が感染しますが、約90%が数週間から2年間で消失します。数年〜10年間持続して感染があると、1

万人当たり60人が前がん状態へ進行し、さらに6人が進行した子宮頸がんを発症します。HPVは150種以上あるとされ、子宮頸がん発症の原因になるタイプを「高リスク型」と呼び、中でも16型と18型が、その可能性が高いです。子宮頸がんを発症した女性では、20歳代で90%、30歳代で76%がこの2つのタイプのHPVに感染して

います。一方の予防接種は2013年4月に定期接種化されましたが、同年6月、副反応を理由に厚生労働省は、積極的な接種勧奨を見合わせることにしました。それから6年たった現在、接種率はほぼ0%の状態が続き、未接種の世代での子宮頸がん増加が心配されています。HPVワクチンの副反応として当時、激しい痛みや失神をはじめ、月経不順、頭痛、だるさ、疲れ、目まい、不眠症、物覚えや計算能力の低下などが問題視されました。しかしその後、厚生労働省の39回に及ぶ検討会で、こうした症状は予防接種を受けていない女性と男性にも見られることから、「HPVワクチンとの因果関係は言及できない」と結論付けられました。



宮原 陽氏

子宮頸がんワクチンについて話した宮原院長は、日本で毎年約1万人が新たに子宮頸がんになり、約3千人が死に達する現状を紹介。「20〜40代の女性の罹

患者が増え、治っても妊娠できなくなる人が多し」と問題提起した。同ワクチンを巡っては、健康被害を訴える人が相次ぎ、安全性への不安から接種が手控えられている。宮原院長は「副反応は10万人当たり50人だが、子宮頸がんのリスクはその10倍を上回る。ワクチンの効果は明らかにの接種を家族で検討してほしい」と訴えた。セミナーは肥後医育塾振興会、化学及血治療

ワクチン正しく知って

熊本市で肥後医育塾

市民向けの医療セミナー「第66回肥後医育塾」が21日、熊本市中央区の熊本テルサであり、ワクチン行政や医療に携わる県職員、医師ら4氏が「ワクチン

子宮頸がんワクチンについて話した宮原院長は、日本で毎年約1万人が新たに子宮頸がんになり、約3千人が死に達する現状を紹介。「20〜40代の女性の罹

患者が増え、治っても妊娠できなくなる人が多し」と問題提起した。同ワクチンを巡っては、健康被害を訴える人が相次ぎ、安全性への不安から接種が手控えられている。宮原院長は「副反応は10万人当たり50人だが、子宮頸がんのリスクはその10倍を上回る。ワクチンの効果は明らかにの接種を家族で検討してほしい」と訴えた。

法研究所、熊日主催。年3回開いている。(松本敦) 復興、豊作願い 東大寺に奉納へ JAかみましき JAかみましき JAかみましき(甲佐町)は21日、熊本地震から3年を迎えるのを前に、農地の復興や豊作を願って奈良・東大寺に農産物を奉納する関係者らの出発式を熊本空港で開いた。

市民健康危機管理課の小山宏美課長補佐、熊本地域医療センターの柳井雅明小児科部長、みやはらレディースクリニック(西区)の宮原陽院長、済生会熊本



ワクチンの効果と必要性をテーマに開かれた「第66回肥後医育塾」=熊本市中央区

街かど クリップ 熊本市 市スポーツ振興基金賞状授与式

個人▽成松大介(ボクシング)▽山口西、志田千陽、松山奈未(バドミントン)▽作田祐

日本では、毎年3,000人もの女性の命が、
子宮頸がんによって奪われつづけています。

年間約10,000人が子宮頸がんを発症し、
毎年、**約3,000人**の女性が
子宮頸がん で亡くなっています。

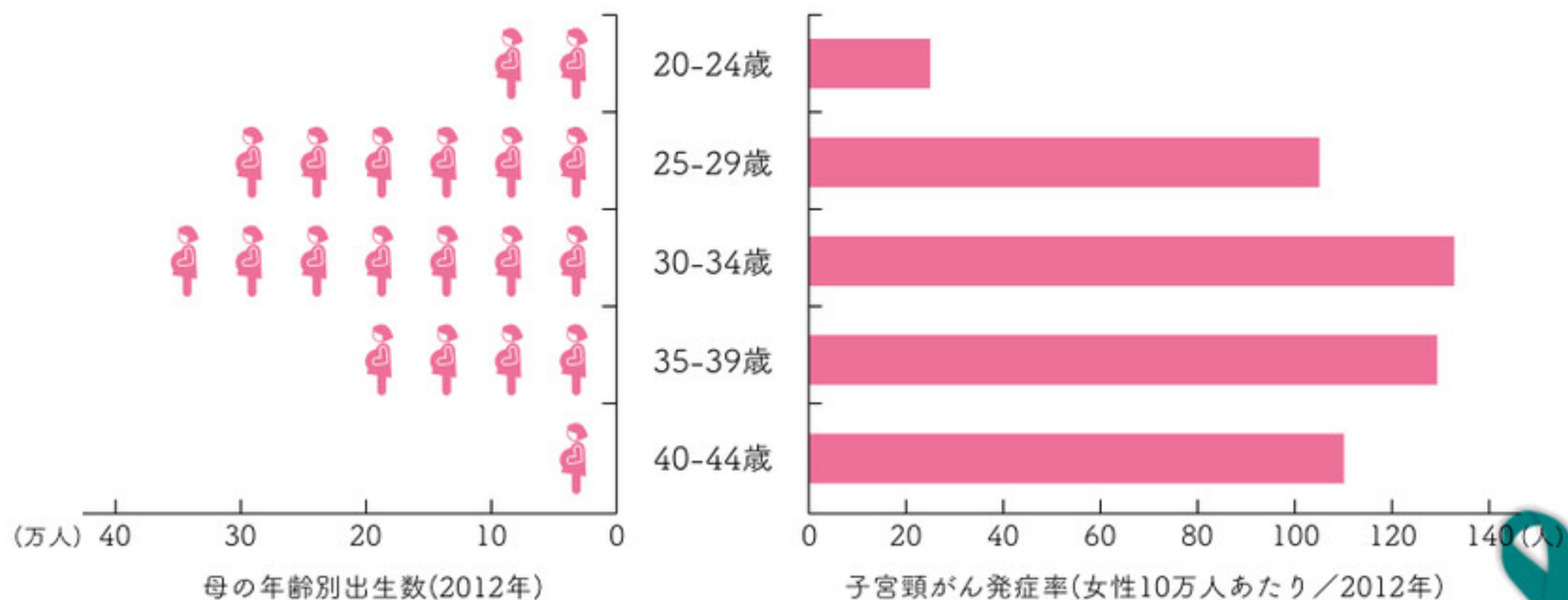
1日に**約10人**が子宮頸がん で亡くなっています。



恋愛、結婚、出産、人生の大事な時期に、 そのがんは、忍び寄ってきます。

- 「出産年齢」のピークは30代前半
そこに、子宮頸がんの「発症年齢」ピークが重なってきています。

＜女性の出産年齢と年齢別子宮頸がん発症率＞



※データには上皮内がんも含まれます。

「子宮頸がん」の原因は、 ヒトパピローマウイルス(HPV)です。

- HPVに感染すること自体はめずらしくありません。
誰でも感染する可能性があります。
- 通常は性交渉により感染しますが、感染しただけでは自覚症状はありません。
- どの型に感染するかは予測できません。

ヒトパピローマウイルス(HPV)には
100種類以上の「型」があります



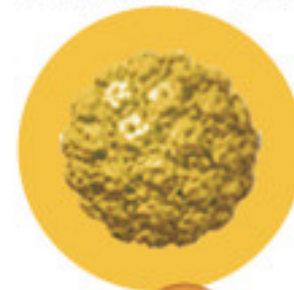
Human Papillomavirus
ヒトパピローマウイルス



がんを引き起こす可能性がある
ヒトパピローマウイルス(HPV)

高リスク型 (15種類程度)

子宮頸がんの原因となるHPVの代表



HPV **16** 型



HPV **18** 型



接種するリスクとしないリスク
一度家族で話し合ってみませんか

予防できない子宮頸がん
罹患数10万人あたり
595-859
死亡数10万人あたり
144-209

重篤な有害事象
10万人あたり
52.5

10倍以上

接種
しない
リスク

接種
する
リスク

